

◎本ニューズレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

長く続くコロナ禍ですが、「応援団の皆さんの調査・研究活動は続いているはず、こんなときこそ励まし合っていきたい」という思いで、今年も応援団交流会「エコネットカフェ」を開催（オンライン）しました。今号では、カフェのようすなどご報告していきます。

通算3回目の交流会はWEB開催！

2021.1.20～2.5【WEB会議場】

「エコネットカフェ・オンライン」で応援団の皆さんと学びの時間を共有しました

感染症拡大防止の工夫を図りながらも、木曽三川流域で調査・研究・広報活動等に取り組む皆さんと、昨今少なくなった技術交流や意見交換の時間を共有するべく、今年もエコネットカフェを企画・開催しました。

1月30日（土）の交流会は、サテライト会場（ネット環境が整わなくても参加できるよう調整しておりました）が、直前に運営中止の運びとなり、参加人数は例年より少なくなりましたが、それでもおよそ40人の皆さんが、それぞれの学校・職場・ご自宅から参加してくださいました。

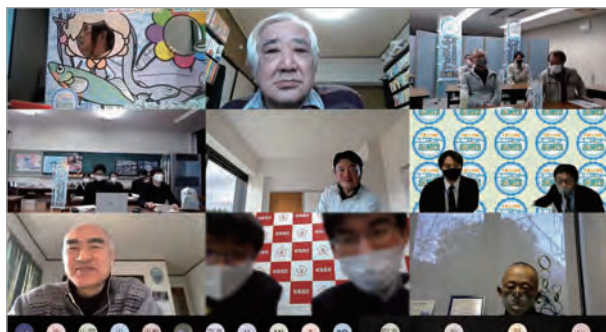
高校生の皆さんの発表は、どれも充実した研究内容に加え、動画を組み込むなどオンライン開催ならではの見ごたえ（映え！）のあるものでした。

その後は、事務局スタッフが世界淡水魚園水族館アクア・トトギスを取材させていただいたインタビュー動画を視聴、そして参加者の皆さんの近況報告と続き、あっという間の2時間（ごめんなさい少し短かったかも）でした。

この企画は、2週間限定のWEB展示会も併設し、応援団の皆さんから提供いただいた取り組み紹介ポスター（9団体・13タイトル）をファイル共有し、自由に感想を書き込めるスタイルとしました。ここでも、熱い質疑が交わられていましたよ。

武田協議会長（静岡大学）にいただいた総括コメントにもありましたように、遠くの人とつながれるというオンラインならではの強みを感じたいっぽう、去年まで会場のあちこちで見られた「ちょっと教えて・聞いて下さい」といったエコカフェならではの、個々の大切な出会いや賑わいをつくるのは難しかったかなとも思っています。

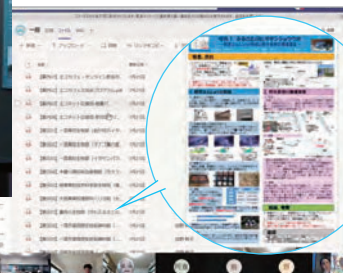
ご協力・ご参加いただいた皆さん、また、参加できなかったけれども、この記事で交流会の雰囲気を楽しんでくださった皆さんも、ほんとうにありがとうございます。ぜひ、今回の企画を、来年度以降のより活発な交流機会と取り組み発展につなげていきましょう！



▲意見交換のようす。今年も研究発表（ポスター含め）は、主に河川生物の保護に関わるもので、質疑も活発。続報が楽しみです



◀木曽三川の最たる魅力のひとつ「世界淡水魚園水族館アクア・トトギス」を取材させていただいた動画を視聴しました



▲自由に感想が書き込めるWEB展示室には、皆さんの研究発表ポスターがずらり（一宮高校生物部、木曽川高校総合実務部、岐阜高校自然科学部生物班、大垣東高校理科ハロ班、富岡小学校生物部、一宮市尾西歴史民俗資料館、羽島市イタセンバラサポーター、ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会、国土交通省木曽川上流河川事務所など）

ニホンウナギを指標に生態系ネットワーク形成の活動第一弾として、石倉カゴを用いたニホンウナギの生息状況の調査を実施しました！

2020.10.17

【海津市 津屋川周辺】

ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会では、ニホンウナギ（本川～支川の連続性）に関する活動の第一弾として、石倉カゴを用いたニホンウナギの生息状況の調査を津屋川において実施しました。

石倉カゴは、伝統漁法である石倉漁と伝統土木工法である蛇カゴを組み合わせで造ったもので、ニホンウナギやその他生きものたちの隠れ家・棲み処になるとともに、ニホンウナギの生息状況を把握するための調査ツールとして全国で使用されています。

石倉カゴの作製や設置箇所の選定に際しては、海津市漁業協同組合やニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会のメンバーからアドバイスをいただきました。

令和2年度は、事業の本格実施に向けた試行として、9月に2基の石倉カゴを津屋川に設置、約1か月後の10月に引き上げを行いました。残念ながら、カゴの中にはニホンウナギの姿は見当たりませんでしたが、巨大なカワアナゴやテナガエビ、モクズガニなどの多くの生きものが確認されました。短期間の設置ではありましたが、津屋川に生息する生き物たちの隠れ家として利用されていることが分かりました。

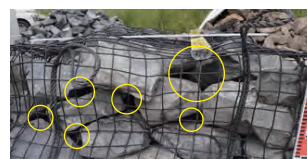
一方で、石倉カゴの構造や調査の手法に関する課題も、今回の試行の中で見えてきました。今後のニホンウナギの隠れ家・棲み処づくりや調査方法に反映していく予定です。次年度は、地域の方と一緒に石倉カゴによるニホンウナギの調査を実施することを考えていますので、関心のある方はぜひご参加下さい！



▲石倉カゴから石を一つずつ引き上げました



▲石倉カゴの近くではニホンウナギが泳いでいました
隙間がニホンウナギ等の棲み処になります



※ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会は、木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会（裏面参照）下に組織されるテーマ部会です。詳細はFacebookページ参照→



イタセンパラの WEB 勉強会

2021.2.20 [WEB 会議場]

毎年恒例のイタセンパラの勉強会（木曾川水系イタセンパラ保護協議会主催）、第11回目となる今年は、初のオンライン会議で開催されました。例年、地域の皆さんがたくさん参加されている行事ですが、今年は全国各地から参加があったそうで、木曾三川の魅力のひとつイタセンパラが、インターネットを介して広まる機会にもなりました。

はじめに、木曾川水系におけるイタセンパラ保護の歴史について紹介があり（環境省中部地方環境事務所野生生物課）、その後、研究者の先生方から、イタセンパラそのものや、域外保全（絶滅危惧種の飼育・繁殖等）の取り組みについてお話しがありました。タナゴ類の産卵のようすや、木曾川を泳ぐイタセンパラの群れなどの楽しい動画や、域外保全における遺伝的多様性の維持に関する専門的なお話など、どれも興味深かったです。また、一宮市、羽島市からは、子どもから大人まで、多様な人びとの参加による地域でのイタセンパラ保護の普及・啓発活動などの報告もあり、学習教材や地域活性化に活用するアイデアなども紹介されていました。

参加者の皆さんからの意見・質問は、ライブチャット形式で投稿できるようになっており、次々に質問やアイデアが書き込まれていくのを見ているのも楽しく、イタセンパラ保護の輪が広がっていくようすを感じることができました。



▲木曾川のイタセンパラやその保護の取り組みが全国に発信されました

タモロコは どこにでもいるコ？ それともちょっと器用なコ？

木曾三川流域
おさかなコラム vol.7

タモロコは、川の流れが緩やかなワンドや田んぼ周辺の水路などでよくみられる魚です。全国的にも広い範囲に分布しており、木曾三川でも、魚とりでよくとれる種類のひとつでしょう。名前の由来は、田んぼの「タ」に、その他もろもろ（いっぱいいる）で「モロコ」ともいわれ、「その他もろもろ」なんてネーミングは、ちょっと不びんな気もします。

そこかしこにすんでいるだけあって、なかなか面白い特徴を持っており、すむ場所、ライバルのいる・いないといった条件に合わせて体型が変わっていくのです。

具体的には、湖や大きな川では、水中に浮かんでいる動物プランクトン類を食べ、スリと大きな個体に育ち、小さな池や用水路などでは、水底に沈んだ有機物などを食べ、ずんぐりとした個体に育つことが多いようです。

また、日本最大の湖・琵琶湖にすむタモロコは、琵琶湖だけに生息する親戚（近縁種）で大きく育つホンモロコがいるためか、例外的にずんぐり型です。この現象は、いろんな場所

に広がっていくタイプのタモロコが、琵琶湖専門タイプのホンモロコに負けてしまった結果と考えられており、「タモロコの反ホンモロコ化」などと呼ばれることもあります。

本当は動物プランクトンが食べたいけれど、親戚付き合いにはどうも負けちゃう…こういう話を聞くと、タモロコの脇役っぽさがますます強調されてきますが、そこは手広くやっているタモロコが上手く折れてあげているとも言えるでしょう。

日本各地に定着し、その場の環境に馴染んだ体型で暮らし、競合相手がいたら角を立てずに譲歩する、タモロコの生き様には学ぶところも多そうです。



facebookページはこちらからアクセス!
<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



掲載用情報を募集しています!

事務局では、このニュースレターや facebook ページで、木曾三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信しています。生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、応援団の皆さんからの投稿・情報提供を随時募集中です。下記お問い合わせ先まで、お気軽に情報をお寄せください。（なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。）



木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省木曾川上流河川事務所）は、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の市民団体・自治体・有識者・河川管理者等によって、平成 26 年度に設立されました。

本協議会では、木曾三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曾三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曾三川流域生態系ネットワーク」ホームページ <<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojoyo/econet/index.html>>

木曾三川流域エコネット応援団 事務局：国土交通省 木曾川上流河川事務所 河川環境課（岐阜県岐阜市忠節町 5-1）

【問い合わせ先(R2事務局窓口)】 cbr-kisojoyo@mlit.go.jp / tel 058-251-1321 / fax 058-251-4301

